

第9期県民生活審議会第2回総合政策部会（概要）

1. 日 時 平成24年6月26日（火）10:00～12:00
2. 場 所 兵庫県民会館 福
3. 出席者 委員：加藤部会長、鳥越会長、浅倉委員、井原委員、大前委員、木田委員、北野委員、小西委員、田端委員、野崎委員、速水委員、山口委員、山下委員、山本委員
県側：山内政策部長、横山県民文化局長、手塚県民生活課長、竹村協働推進室長、久戸瀬副課長、赤松主幹、土屋主幹、有吉補佐、永園係長、県民局ほか関係職員

4. 内 容

(1) 政策部長挨拶

- ・ この審議会は第8期の答申を具体化するという趣旨で始められ、「社会的孤立を防ぐ地域づくり」というテーマは益々大きな課題となってきた。
- ・ 8期で示された地域のつながりを再構築するという方向性が実効あるものになるように、具体的にどう取り組んでいくかというのが次のステップ。
- ・ これまでの委員のご発言を再整理して提言の骨子案を示しているのので、忌憚のないご意見をいただきたい。

(2) 資料説明について

- ・ 事務局から資料1～6に基づき説明

（部会長）

- ・ 第1回の総合政策部会終了後、A委員より、各委員から審議の参考となる事例の紹介をいただいていたかどうかというご提案があったので、今回お願いさせていただいた。お答えいただいたA委員、B委員からご説明いただきたい。
- ・ この部会の前に会長、部会長等の政策委員会を開催したので、それについて会長から説明いただく。

(3) 事例の説明について

（A委員）

- ・ 前回の会議で出た「自助・共助・公助」といったところで、県民生活審議会の委員から事例をいただいたら、県で把握していない光る事例というものがあるかと思い、委員から事例をご提供いただくことをご提案させていただいた。

《神河町長谷地区》

- * J Aが撤退しコンビニとガソリンスタンドが閉店するというので、地域で株式会社を設立し、マーケットとガソリンスタンドを経営。
- * 地域の方々が株主なので、自助とも言え、地域全体では共助とも言える。また、県民交流広場事業を活用して施設整備をしているので、この部分は公助。
- * 県民交流広場で実施しているふれあい喫茶に併設されており、交流の場となるとともに、マーケットに立ち寄ってもらうことも目的になっている。

《豊岡市薬王寺地区》

- * 空き家活用による地域振興に取り組もうと地域で株式会社を設立。すぐには活用策が無かったため、NPOの現地事務所として貸し出し、活用してもらいながら、賃貸料によって資金協力を得た。

《豊岡市奥山地区》

- * 地域内の住民だけでなく、地域外の出身者を構成員に含めて地域組織を新しく設置。

《小野市小野地区》

- * 商店街の寺子屋として、大学、地元の高校生、NPOなどが日替わりで学童保育所的な学びの機会を提供することで、地域の活性化、コミュニティの形成に寄与している。

(B委員)

《西宮市東山台》

- * 震災を機に取組開始。リタイヤ組が中心だが、こまめにニュースをだし、現役世代とも情報共有を図っている。
- * 新しい事業をする時には1～2年研究してから踏み出す。

《神戸市西区井吹台》

- * 井吹ジュニアチームを組織して子どもが防犯・防災の取組をしている。
- * 大学生がボランティアで、引きこもり、不登校などの子どもの対応をしている。
- * 未就学児の親子の運動会や時間預託の仕組みを考えている。

《神戸市東灘区本庄地区》

- * 地域に外国人が増え、生活ルールが周知されないことがあったため、NPOと連携して、多文化共生の取組を行っている。

《神河町》

- * 子どもの数が減っているが、地域で子どもを育てるという意識があり、それは町民性もあるかもしれない。

《神戸市長田区苅藻地区、丸山地区》

- * 両者ともかつては公害対策で有名な地域。苅藻地区は震災後、企業も絡んだ形で活発に地域づくりが進められている。丸山地区についてはどうなっているかわからないが、課題を抽出出来れば良いと思う。
- ・ 県民交流広場の活動が活発に行われているところと低下しているところに、課題が集約されており、素案に対する取組のヒントが隠れているのではないかと。

(4) 政策委員会の報告等について

(会長)

- ・ 今後討議すべき事は大きくは3つある。
- ・ 1つは県民交流広場事業の採択が終了したが、これをチェックし、悪い点ではなく良い点を今後更に良い形で他に普及出来るよう、ある種の理論で整理する必要がある。
- ・ ここ 15～20年、コミュニティ施策は小学校区を対象にしてきたが、家族、近隣、中

学校区という視点も視野に入れて議論しても良いのではないかと。

- ・ 2点目は、県民生活審議会が伝統的に成熟社会論を議論してきた。成熟社会の理論の最後の結論が新しい公共という言い方になったと思うが、今の時点でこの成熟社会論をどういう形で捉え直すのか。そのままか、ちょっと変えるか、議論の必要がある。
- ・ 3点目は、新しい自治については国や基礎的自治体が施策を打っている状況下で、兵庫県内の基礎的自治体のちょうど真ん中当たりの使いやすいような新しい自治論を作るのか、先端のものを目指すのかが問われる。これは真剣に議論しなくても、意識下に置きながら議論すれば、最終的な提言がどちらに行っても良いと思う。

(5) 意見交換等

<地域自治の姿について>

- ・ 資料1に書いてある新しい自治の姿は昭和30年代に捨てざるを得なかったもので全然新しくないが、ここは私たちの議論でどう出来るか、という部分。懐古でなくて新しいコミュニティの姿が描けるか、一緒に議論していきたい。
- ・ 地域自治組織のあり方については、それを議論することが県にとってどういう意味があるのか考えた方がよい。最先端のものを作るのは基礎的自治体に任せて、兵庫県の多様性を考え、中程度の使いやすいものを考えることに賛成。兵庫県の多様性を考えると、県として出せるのはそういうものでないと思いがきかない。
- ・ 地域モデルの使いやすい形とは、県民交流広場の取組の継続ではないか。県民交流広場は議論し共有するための場を意図したが、寄り集まるメンバーが少し偏った印象。本来の意味のラウンドテーブル的な機能を果たせる場が必要だったのでは。
- ・ 地域自治の姿を一方で示しながら、他方で議論を具体化する事業をセットで示さなければならないのでは。それは県民交流広場の意図をくみ、良いところを引継ぎ、まずかったところを是正しながら、という取組。
- ・ 県民交流広場を見直す中で、新しい自治についての議論が明らかになるのでは。
- ・ 均一的で画一的なものをやりなさい、ではなく、トータルとしてこういう方向に向かいましょ、それについては、それぞれの地域の特性に合った形でやられたらどうですか。しかし使ったお金はその評価も入れてきちんとやりましょ、ということ。
- ・ 県民交流広場やコミュニティは元々プラットフォームで、これをどうマネジメントしていくかということ。
- ・ 個と個を繋ぐと発言があったが、地域の魅力、コミュニティの魅力は繋ぎ方のあり方の個性が魅力や違いだと思う。また繋ぎ方が地域の価値観に合った形で繋ぎ変えられる仕組みづくりをこの審議会の成果として出来上がると良いと思う。
- ・ 失われたリンク、ミッシング・リンクをどう浮上させるかもあるし、移動するのにエネルギーが要らない時代なので、人が動くことを前提に、一種の橋渡し、ブリッジのようなリンクも議論としてあってもいいのではないかと。
- ・ 最終的には「しなやかで頑健なコミュニティをつくる」。兵庫型のしなやかで頑健なコミュニティづくりに向けて、色んなご指導をいただきたい。

<資料1「基本的考え方」について>

- ・ 第8期では交流の場が、新しいコモンズとしてどう捉えられるかが議論された。その部分を具体的に、今の地域社会に合った形で基本的な考え方の中に落とし込んでいけば見えてくるのではないか。
- ・ 人口減少社会や価値観の多様化など、地域のあり方が大きく変わってきて対応しなければならない中で、果たして「家族のつながりを深める」「地域のつながりを考える」の2本でよいのか。「個のつながりを創造する」という視点が必要。
- ・ 1/3が単身世帯であったり、家族の中でも個人が孤立しており、家族のつながりを深めるだけでは問題解決を出来る時代ではない。
- ・ 国立青少年教育振興機構の調査によると、子どもの頃に豊かな体験をした人ほど、勉強や働く意味をわかっているというデータが出た。特に小学校高学年～中学生は家族のふれあいや地域活動の関わりは大事と言われている。子どもはいつも地域の参加者や助けられる立場ではなく、もっと主体的に関わる視点があればいいのでは。そうすれば子どもたちの地域に対しての意識、ふるさと意識も変わってくると思う。
- ・ 子どもの視点から考える時にどんな理屈が成り立つかを考えるのは面白い。
- ・ 資料2の「自律と連帯」の説明の「それぞれの個性・主体性を生かしつつ協働で地域社会を運営する」が出来たら、色々しなくてもこれだけで良いのではないか。これが出来ないから問題。
- ・ 地方分権という県と市の役割を明確にしていくということを時代の流れという意味でも、もっとこの中に入れていくべき。
- ・ 資料1, 2は大分まとまっているが、県民と言うからには子どもから年配まで生涯にわたって満足の出来る豊かな生活が送れるのかどうかという視点がいるのでは。
- ・ 骨子案は市の資料だと言われても読めてしまう。市単位でやった方が直接的に実態にあった対応が出来る部分もあるのでは。県がやるからには県として出来ることを考えていくことが大事。

<家族や血族のつながりを再考する>

- ・ 今の若い人たちが家族、血族、民族のあり方を認識、教育されずに来たから、自分の生き方で結婚しなくても、子どもを生まなくても良いとなっている。個人が責任を持って個人の生活を守るのが原則だが、誰が支えていくか、責任を取るかという、血族、家族のつながりが人間の根幹。公的機関も限界があるので、一番身近な血のつながりに戻す必要がある。
- ・ 懐古的になるといっても、どの時点に戻ったとしてもパーフェクトな状況ではない。その時々で不足していたこともある。
- ・ 家や血族を重視しろというのは、我々の家や家族は崩れていくものとして、地域社会でやっていこうとしていた考え方が良かったのか、という視点。これはやっていないことなので、何かの形で考え直して、良いアイデアがあればと思う。
- ・ 私は2年前から気づいて言っているが、子どもの見守りも私たちがしすぎたから、社会や国が子どもを育ててくれるという意識を親が持ち始めた。家族、親の責任であると戻さなければいけない。

＜県民交流広場の検証と取組を踏まえた今後の展開＞

- ・ 自助、共助、公助といっても、結局自分たちでやらないといけないのだが、県民交流広場はその最初のきっかけを作ってくれた点ですごく良かった。広場という形が終わっても、一つ一つの取組は終わっていない。地区を越えて講演などにもいっており、行政に対して文句ばかり言っていた地域が、うちの事例を聞いて、自分たちがやらなければならないと認識したりしている。
- ・ スポーツクラブ 21 と県民交流広場を比べ、良かったのがお金の出し方。全部に配るということをしなかった。ネットワークづくりを大切にし、後の指導の入れ方も良かった。
- ・ 私の地域では、聞く限り県民交流広場はどこも成功していない。作ってしまったものなので、どのように活かすかは今後の課題。
- ・ 県民交流広場、スポーツクラブ 21 は結果を見ることが大事。活性化した活動をしなさいよ、という指導も必要。
- ・ 県民交流広場を継続することについては慎重に考えた方がいいのでは。お金が外から入ってくるので継続出来るというのは、本来目指す姿ではないと思うので、一旦やめるという議論も考えるべき。
- ・ 県民交流広場を継続するのではなく、当初の政策的意図である場づくりをきっちり引き継ぐべきで、引継ぎながら、次の県民交流広場に代わる県の中心的事業の具体化まで持っていかないと、という意味。
- ・ 県として、事業となると予算を付けざるを得ない。地域として自発的にという県民交流広場の理念からスタートしたものは、継続といって続けて外からお金が入ってくるのではなく、自分たちでやりたいから、であるべき。
- ・ 県民交流広場に足りなかったものは人づくり。失敗したところは場づくりで終わっている。地域のネットワークの再構築というのがテーマではなかったか。その視点が足りなかった。
- ・ モデルで取り上げているのは出来ているところ。出来ていないところに課題がある。誰も地域が悪くなるのを望んでいないが、どうすればよいかわからずだんだんと衰退していく。そこをどうすべきか考えなければならない。
- ・ 県民交流広場をきちっと位置づけし直す必要があると、かなりの人がおっしゃったので、やるべきだろう。ここから再構築していくと何か見つかるかもしれない。

＜地域に対する支援策のあり方＞

- ・ お金の出し方、後の指導が大事。また途中で打ち切りがあっても良いのでは。行政は公平性を問われるので、全部にという考え方になるが、みな血税なので、それをどうするかは大事。
- ・ 資金のことで、やる気のあるところはやったらいいという話もあったが、行政の予算の考え方が仕組み上、民間ほど柔軟ではないのが難しいところ。
- ・ 田舎ではもっと希薄になりたいと思うほど人間関係が濃いのが、一方で都会では希薄になっている。多様な地域があるのに一つの目的、一つの手法で出来るのか疑問。
- ・ できるところにお金を付けるという話だと、懸念するのは出来ないところは どうする

のかということ。中山間地域や中心市街地でも高齢化で後継者不足だが、そこを放置する社会的損失は大きい。

- ・ 県民交流広場の意味は、沿岸部の余ったお金を農村部に持っていくという格差を是正する策だと思う。そういう意味を考えると公平に配るという意味もある。配分のやり方に問題があるなら、方法はあると思う。
- ・ 頑張っているところは税金を安くして、もっと頑張れるようにする。頑張れないところは、人や補助金を付け、地域を維持出来るようにする。廃村にすることで、例えば環境面で起こる社会的損失を防ぐため行政の役割がある。審議会の議論を離れるかもしれないが、考慮して欲しい。
- ・ 地域の段階に応じて、いくつかのパターンを作って支援をすると、全体のレベルアップが図れるのでは。今からのキーワードは人、もの、お金。そこをどう作っていくかもやっていかなければならない。
- ・ 「人・もの・お金」を考える時、お金が助成金というところにすぐに結びつくのはやめたい。
- ・ 事例を見ても、アドバイザーが入って上手くいっている。そういう仕組みをもう一度考え直す必要があるのでは。県民局の推進員などがどのような実態で動いているか、そして課題解決にその仕組みをどう上手く使うかが大事。

<県民審議会の議論の方法>

- ・ 一歩先の理想の理論や政策も必要だが、それが実際に県民に役立ち、実行出来る形でないという意味がない。今回の資料について、先に進んだ意見を先生方からいただくのは賛成だが、足はこの資料に着けて県民生活に繋がった形で今後の議論をするべき。
- ・ 新聞に「兵庫県独自に豊かさ指標」を作るという記事が出ており、ビジョン課に行って概要を聞いてきた。豊かさ指標は県民生活のほとんど全てに関わるので、ビジョンで議論してもいいが、この審議会とも上手く連携して議論が出来たらよいのではと思う。
- ・ 縦割りの非効率を排除し、相互に使えるところは使って効果的、効率的な政策作りをやっていただきたい。
- ・ 目的と議論すべきことを分けてないから堂々巡りするのは。今回の目的は「絆の形成」と「支え合いを持続する仕組み」と決まっています。そこは普遍のものなので、そのために今の時代にあった仕組み、方法、切り口というような方法論を議論するべきなのではないか。
- ・ 今までの手順がどうだったのかを見直しながら、ロードマップをきちんと作り、新しい仕組みを考えていく。その前には今の課題を絞り込んで目的に合っているか整合性をはっきりさせる。そうすると毎回堂々巡りの議論をしなくても良くなるのでは。
- ・ エコマップを作って個人と家族、個人と地域、家族と近隣の間を個別に考えていくと、都心や農村部ではこういう関係があるというのが出てきて、議論がしやすくなる。また、各施策の整理もその中で出来る。さらに個人や家族の絆がしっかりしていると、それが家族とコミュニティの間でどういう関係にあるのか、という形で展開する。これは個人から地域に向かっているという点で、ミクロからマクロの視点。

- ・ マクロからミクロの視点は、地域の組織化をどうするかということ。ある市では県民交流広場で行っている地域組織が多分地域自治の一つの姿になるだろうという議論をしている。
- ・ 単独高齢者、子どもの数の減少、生涯未婚など自由に選ばいいが、個々の自由と全体として望ましい姿にはギャップが出る。それをどう処理するか、という辺りを考える必要がある。
- ・ パワーアップ事業の審査員をしていて、審査の基準としているのは、関わる地域の広さと人数、目的が将来広がるかどうか。それで判定したら地域に貢献しているところが残る。全てのベースはこの考え方にある。地域や兵庫県の住民が一緒に取り組んでやれることを審議して欲しい。
- ・ 抽象的な理念や哲学も必要だが、重点施策で取り組む事業という両方がいる。

<タイトル「兵庫のふるさと」について>

- ・ 「ふるさと兵庫」から「兵庫のふるさと」に変えた意味がわからないので教えて欲しい。
- ・ 「ふるさと兵庫」というと、全部同じの金太郎飴的な兵庫と捉えられるかと危惧した。「兵庫のふるさと」が良いと確信している訳ではないが、地域もそれぞれ個性があるという思いも込めて書いており、他に良い言い方があれば教えて欲しいという思い。
- ・ 先の会議ではキーワードがいるという話をもらいながら、事務局で考えてもなかなか出なかった。「ふるさと」という言葉に地域の愛着というイメージがあるかと思い、事務局提案として出させていただいた。変えていただけたらと思う。
- ・ 新しい地域自治といっても、地域で暮らす我々のベーシックなところは毎年変わるものではなく、今の時代に即したエッセンスを入れるということになるのではないか。何か今の時代にあった仕組みを加えるなど、お知恵をいただきたい。
- ・ 「兵庫のふるさと」は丹波、但馬、東播磨などそれぞれの地域を示している。「ふるさと兵庫」だと、兵庫全部がふるさとという意味に捉えられる。今回は一つ一つの地域の話なので、「兵庫のふるさと」だと思う。

<実際の地域の状況>

- ・ 5年間モデル地区として素晴らしい取組が出来たと自負しているが、一部の方の強いご意見で終了することになった。何も関わらずに横から見ている人だが、田舎はそういう声の大きな人に動かされるという体質を持っている。
- ・ 今は携帯に話しかければ解決する時代。こういう社会で、色んな世代の意見がラウンドテーブルで交わせるか。都会は関心の無い人が多いのも課題。
- ・ ビジョン委員会などで良いことが発言されるが、地域の人には全然伝わらず、空しい思いになる。

(6) 県民文化局長挨拶

- ・ 原点にもう一度帰り、変えてはいけないものを守りながら、今のエッセンスをどう付けていくかということで、議論が面白くなってきたと感じる。

- ・ 審議会の議論が県民にどう伝わるかということについては、条例にも示されている年次報告等の手段を積極的に使いつつ、「みんなで考えていこう」という熱い思いも県民と共有出来るようやっていきたいという意欲が湧いてきた。
- ・ 今後ともご相談したいと思うので、よろしくお願い申し上げます。